

明石春浦先生

身無二遺憾一常安枕
室有餘閑一自煮茶

(半折)

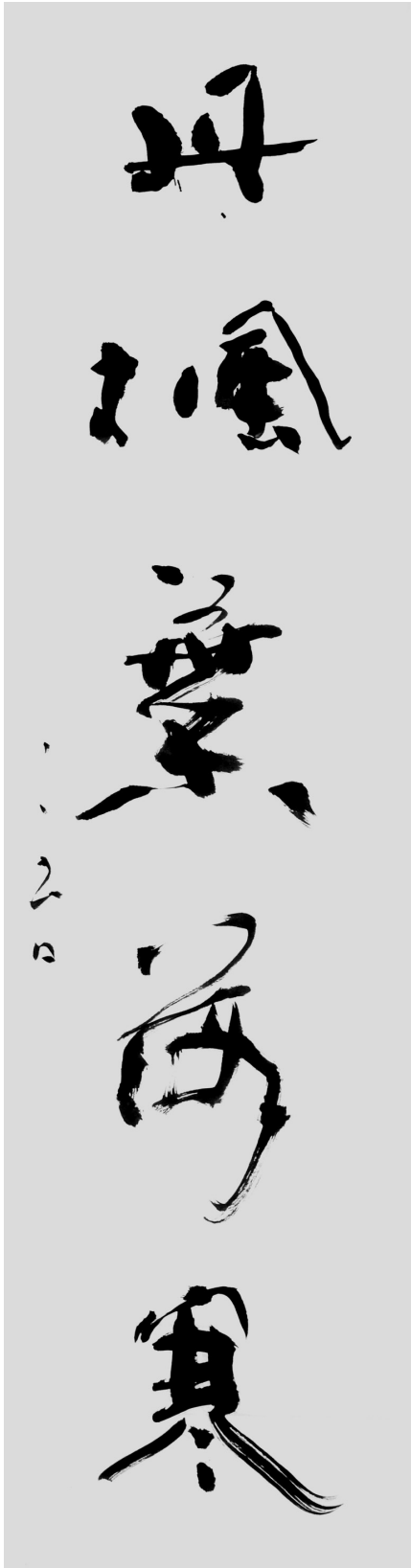
みにいかなくつねにまぐらやすんじ
身無二遺憾一常安枕 身上に心残りとなき常に安眠することができ、
しつによかんありみずからちやをにる
室有餘閑一自煮茶 家庭はのどかで、われ自ら茶をたてる。

(趙翼)

条幅部自由参考

11月25日正午必着

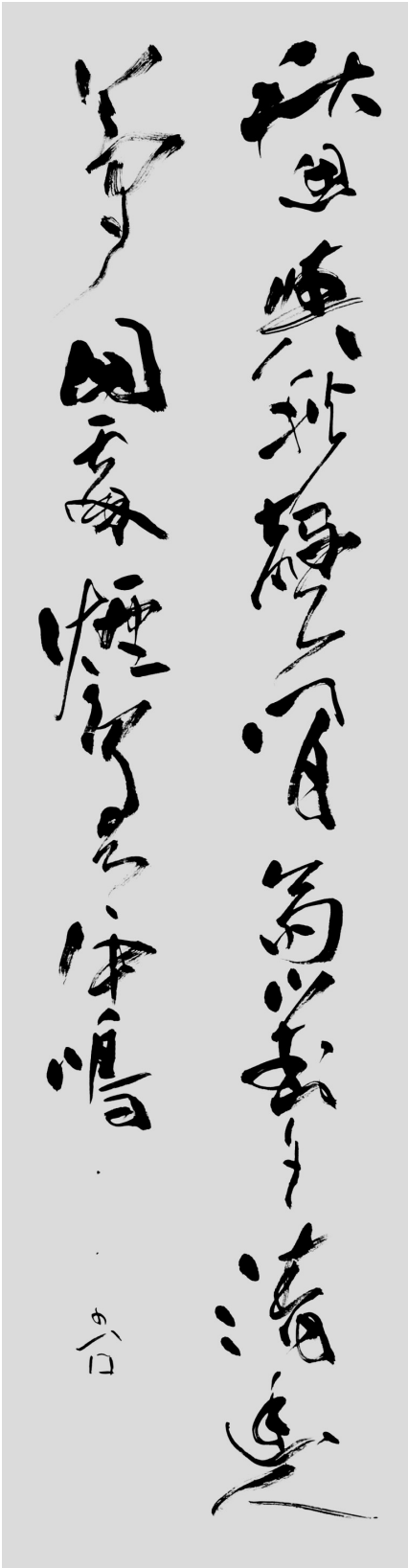
明石春浦先生書



丹楓葉落寒 (蕭國寶)

楓樹の紅葉が散って、いかにも寒さむとしている。

三浦士岳先生書



秋思與秋聲。
幽人夢回處。

閒齋對二夕清。
煙鳥月中鳴。

(高青邱)

秋思を動かし、秋聲を鳴らす折しも、物しずかなる書齋に近く、竹外晩景の清きに對して居る。
やがて幽人の夢が醒めると、煙を帯びたる鳥の、月明の中に鳴くのが聞こえた。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

天淨月華清

(僧善住)

天淨く月華清し

秋夜獨坐し虫の音も細く聞える

碧雲淡日黃花節
紅樹西風白雁秋

(沈名孫)

碧雲淡日黃花の節
紅樹西風白雁の秋

青い雲、弱い日ざし、これは重陽九月九日菊花節。
紅葉、西風、これは白雁の南に帰る秋。

秋夜泛舟

(劉方平)

秋夜舟を泛ぶ

劉方平

林塘夜泛舟

蟲響菰颯颯

林塘夜舟を泛ぶ

虫響いて菰は颯颯たり

萬影皆因月

千聲各爲秋

萬影皆な月に因り

千声各々秋の爲なり

歲華空復晚

鄉思不堪愁

歲華空しく復た晩る

郷思愁いに堪えず

西北浮雲外

伊川何處流

西北浮雲の外

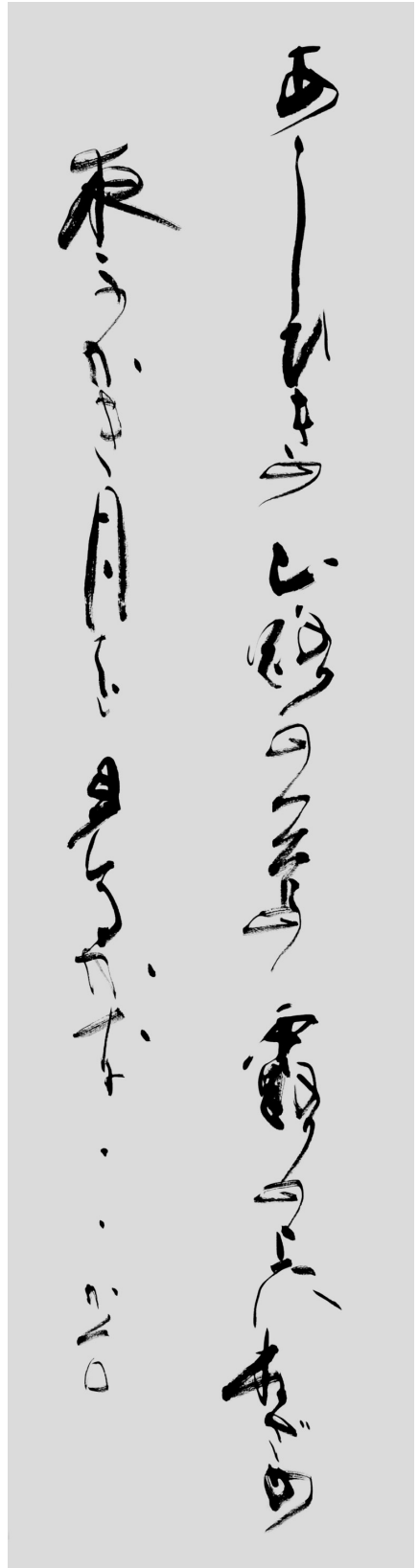
伊川何れの処にか流る

ふかぶかと澄みわたりたる秋空に

山のつつくは寂しきものか

(橋田東聲)

あしひきの山路の苔の露の上にねざめ夜ふかき月を見るかな(藤原秀能)



明石幸子書

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

草 徑 入
荒 園

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

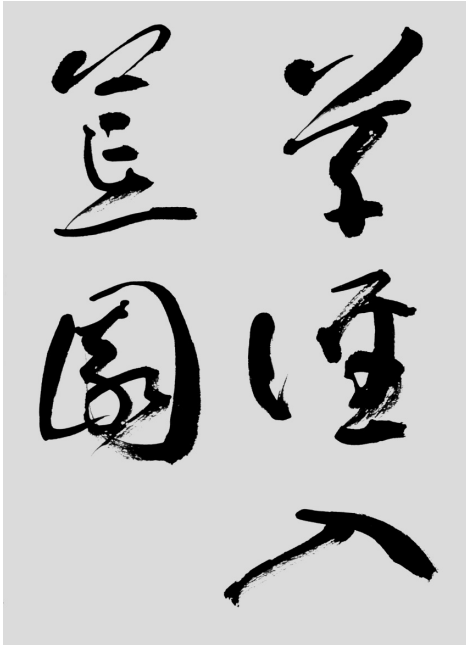
行書



隸書



明石春浦先生書



草書

行草書

しずかなわびずまい、隣り合う家とてなく、草むす徑は、荒れるにまかせた庭へとみちびかれる。鳥は池の中の木立にやどり、僧がひとり、月の光の下に門をたたく（ひそやかなその音）。橋を過ぎてなおも存する野のけはい、山中の雲のわく石を移し来てすえてあるのが目に入る。しばらく他処に行っていました。またここにもどって来ました。風雅のちぎり、決して言に違ふことはありません。

題「李疑幽居」

賈島

閑居少鄰竝

草徑入荒園

鳥宿池中樹

僧敲月下門

過橋分野色

移石動雲根

暫去還來此

幽期不負言

李疑が幽居に題す

閑居 鄰並少に

草徑 荒園に入る

鳥は宿る 池中の樹

僧は敲く 月下の門

橋を過ぎて 野色を分かち

石を移して 雲根を動かす

暫らく去りて 還た此に来る

幽期 言に負かず

（出典）
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

杜家立成雜書要略一卷

雪寒喚知故飲書

雲霏雪白入領沾裳蕭瑟嚴風飄簾動
幕今欲向爐舉酒與以拂寒入店持杯
望其遣悶故令走屈希即因行願勿遲
遂勞再白姓名呈

答

既蒙高旨許令陪醺在生忻慰何樂如之得

杜家立成雜書要略一卷 / 雪寒喚知故飲書 / 雲霏雪白入領沾裳 / 蕭瑟嚴風飄簾動 / 幕今欲向爐舉酒與以拂寒入店持杯 / 望其遣悶故令走屈希即因行願勿遲 / 遂勞再白姓名呈 / 答 / 既蒙高旨許令陪醺在生忻慰何樂如之得

着必正午25日11月

入店持杯望其遣悶故
 令走屈希即因行

入店持杯望其遣悶故令走屈希即因行

 入店持杯望其遣悶故令走屈希即因行
 入店持杯望其遣悶故令走屈希即因行

杜家立成雜

杜家立成雜

光明皇后・杜家立成雜書要略（奈良時代）

光明皇后（七〇一年〜七六〇年）は聖武天皇の皇后光明子であつて、天皇とともに鎮護国家の思想によって仏教を厚く信仰し、寺院の建立や大仏の造立に力を注ぎ、悲田院・施薬院などの慈善施設を設けて貧窮民の救済にあつた。

奈良時代は、遣唐使の派遣などによって、唐の最盛期の文化の影響を強くうけ、平城京を中心に高度な貴族文化がさかえた。（天平文化）

書においても、唐土から掲模本（敷き写しされたもの）が数多く請来され、光明皇后も王羲之をよく学ばれていたようで、『樂毅論』の臨書はあまりにも有名である。その臨書態度の素直さは、その人柄からきているものであろうか、一字一字誠心を込めて書かれた美しさは何人も及ばぬ崇高さを持っているといわれる。

光明皇后の書には、『樂毅論』と並び称せられるものにこの『杜家立成雜書要略』がある。これは、文章の名家としてよく知られていた随の杜家の日常書簡文例を書き写したものである。この書は、第一紙の部分は樂毅論ときわめてよく通ずるところがあり、第二紙からは筆勢が暢達しており、さらに円熟した趣を感じさせる。皇后の、物に動じない強さと、純粹な性情の発露したこの書は、奈良時代を代表する名品といわれている。（春濤）

11月25日正午必着

教育部毛筆



こんごうりきし
金剛力士

中学一年

雨宮春聲先生書



いちようなみき
銀杏並木

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ゆう やけ そら
夕やけ空

小学五年

榎戸春龍先生書



こ と あき
古都の秋

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



あ
当 た り

小学三年

藤田幸春先生書



こども^{かい}会

小学四年

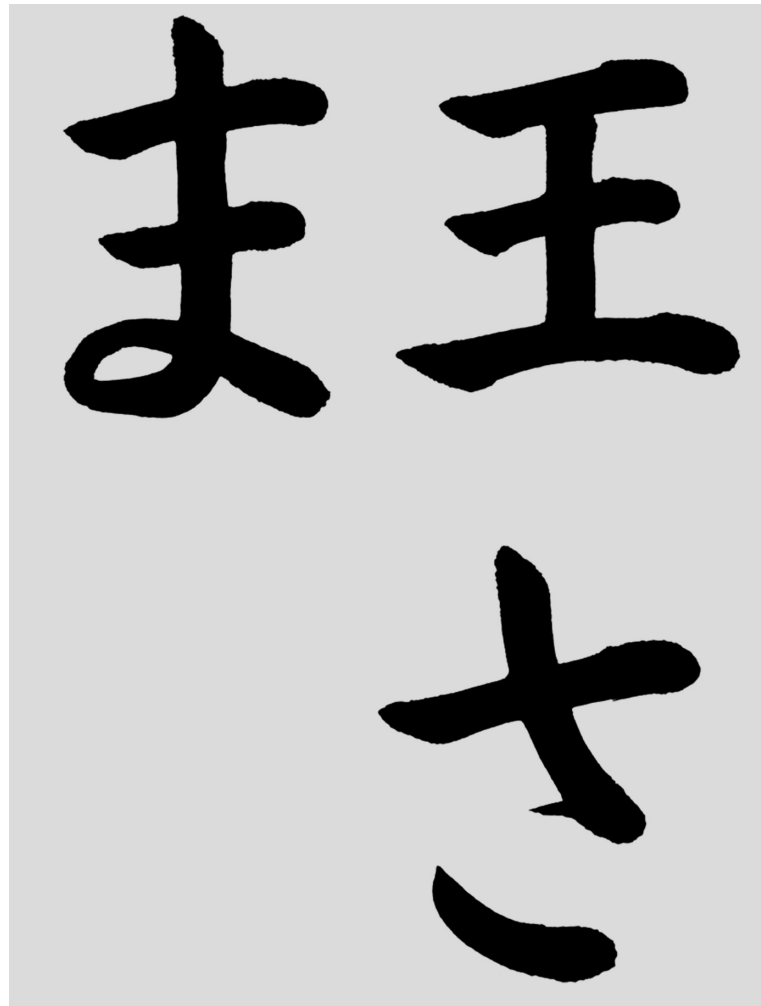
細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

し お 小学一年・幼年



森戸春濤書

^{おう}ま さ ま 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部 硬筆

ペン字部

地図を見ながら友
だちの家をさがす

小学五年

自分の良心にはじな
いように行動する

小学六年

となり所て秋の美術
展が開かれています

中学

枯れ葉舞うこの頃は
少しづつぐんぐん恋しい

一般(級位)

夕づく夜小倉の山に
鳴く鹿の聲のうちにや
秋は暮るらむ

一般(段位)

ゆづくよこくらやまに なるしかのこゑのうちにや 秋は暮るらむ (紀貫之)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

を	つ
	み
つ	き
く	で
っ	
た	い
	え

幼年

せ	つ
の	ま
び	先
を	を
す	た
る	て
	て

小学一年

じ	大
を	き
し	な
しま	声
しよ	で
う	へ
	ん

小学二年

コ	木
が	の
は	根
え	元
て	に
い	キ
る	ノ

小学三年

な	黒
が	い
ら	け
汽	む
車	り
が	を
走	は
る	き

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

かすみの夜を

やしむらじやいな

鹿入りまらねらふた

たまわらふ



岩本景楓先生書

春日野の、夜をさむみかもさを鹿のまちのちまたをなきわたりゆく (会津八一)